みやぎの市町村レビュー

美里町

1．位置・面積

美里町（平成18年1月1日、小牛田町と南郷町が合併）は、宮城県の北東部に位置し、仙台市からの距離は50km程度、面積は75.06km²（県内36市町村中23位：合併した自治体の計数は旧市町村の合計値、以下同じ。）となっています。

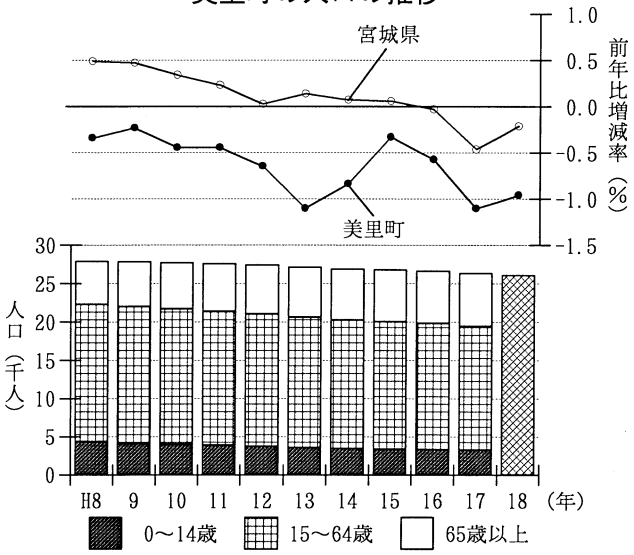
2．人口動向

美里町の人口（平成18年）は、26,076人であり、県内36市町村中19位となっています。

平成8年以降の人口の推移をみると、減少傾向で推移しています。

また、平成17年（26,329人）における年齢階層別人口をみると、年少人口（0～14歳）が3,258人（構成比：12.4%）、生産年齢人口（15～64歳）が16,190人（同61.5%）、老年人口（65歳以上）が6,881人（同26.1%）となっています。

美里町の人口の推移



注）各年10月1日現在。
資料：総務省「国勢調査報告」、宮城県「宮城県推計人口」

3．産業構造

美里町の町内総生産額（平成15年度）は666億円であり、県内36市町村中22位となっています。

美里町の町内総生産額を産業別にみると、サービス業が106億円と最も多く、次いで製造業（105億円）などとなっています。

また、産業別生産額の構成比を宮城県と比べてみると、農業（4.9%）や建設業（8.4%）のウェイトが高い一方、卸売・小売業（11.6%）やサービス業（15.9%）のウェイトが低い状況となっています。

美里町の産業別町内総生産額（平成15年度）

	実額（億円）		構成比（%）	
	美里町	宮城県	美里町	宮城県
農業	33	980	4.9	1.2
製造業	105	13,216	15.8	15.7
建設業	56	4,843	8.4	5.7
卸売・小売業	77	13,078	11.6	15.5
金融・保険業	18	4,163	2.7	4.9
不動産業	103	12,285	15.5	14.6
運輸・通信業	64	7,551	9.6	9.0
サービス業	106	17,315	15.9	20.5
公務・その他	104	10,836	15.6	12.9
合計	666	84,267	100.0	100.0

資料：宮城県「宮城県市町村民経済計算」

４．市町村民力

美里町の民力（平成18年）をみると、経済社会活動の総合力を表す基本指数は94となり、県内36市町村中21位となっています。成長性を表す同増加指数（9,902）は事業所数や市町村内総生産が市町村平均並みの水準となったことから、19位となっています。

また、総合的な産業力を表す産業活動指数（93）は21位となっていますが、同増加指数（10,246）は、卸売・小売業販売額や農業産出額の増加などから、13位となっています。

美里町の民力（平成18年）

	指数	順位
基本指数	94 (9,902)	21 (19)
産業活動指数	93 (10,246)	21 (13)
農業・漁業指数	179 (10,269)	15 (9)
製造業・建設業指数	100 (9,886)	24 (19)
商業・サービス業指数	85 (10,883)	18 (7)

注1）（　）内は増加指数。順位は36市町村中。
2）基本指数は人口や市町村内総生産など5指標、産業活動指数は農業産出額や製造品出荷額等、卸売・小売業販売額など15指標を合成し作成。基本指数、産業活動指数は市町村合計=10,000とした万分比、増加指数は平成13年対平成18年の増加倍率（市町村平均=10,000）。

資料：当行「平成18年宮城県内市町村民力」

５．地域資源と温故知新 ～東北トップクラスのバラの特産地～

合併に伴い新たに誕生した美里町では、公募によって、繁栄の象徴とされる特産のバラの花が「町花」に選定されました。

バラの切り花の生産は、平成元年、旧南郷町の複合経営農家が減反を機にバラの専作経営に転換し、複数の農家とともに生産組合を立ち上げたことに始まり、「バラのまち南郷」の礎となりました。その後、二つの生産組合や農業生産法人の発足などにより栽培面積が拡大する一方、商品力の向上による市場での評価が高まるにつれて出荷先が首都圏市場に拡がり、今では年間300万本ものバラを生産する東北トップクラスの特産地に成長しました。

バラの生産は、南郷地区の四つの地域において、農業生産法人が温室の水や燃料にリサイクル資源を活用し低コスト経営を展開するなど産地の核となり、生産組合と連携しながら通年生産を行っています。一方、南郷のバラの切り花は、「東北花の展覧会」等の花き品評会において農林水産大臣賞をはじめ様々な賞に輝いています。このように、生産活動や栽培技術に加えて雇用創出などの地域貢献が高く評価され、農業生産法人が「花の国づくり共励会・花き技術・経営コンクール」において農林水産省生産局長賞受賞の栄誉に輝くなど、特産のバラが地域振興や南郷ブランドの浸透に大きく貢献してきました。また、町内においては、地域交流・情報発信の場として賑わう農産物直売所の「花野果（はなやか）市場」や各種イベント会場を通して、バラの花が華と潤いを演出するなど町を活性化する源となっています。

「父の日」等の記念日にはバラの花をプレゼントするなどライフスタイルの変化に伴う需要の拡大が見込まれている中で、生産規模の拡大のほか、街をバラの花で飾る植栽化の推進や観光バラ園の新設など、バラを活かしたまちづくりが課題となっています。今後は、合併を好機と捉え、生産・流通や行政等の関係者が連携を深め一丸となって課題に取り組むことにより、新たな美里町ブランドを確立するなど一層の地域振興が期待されます。

主力品種の「ローテローゼ」

「花野果市場」の棚に並ぶバラ

バラの手入れ作業中の
農業生産法人の佐々木社長